

第十日目

師 範：奈良の都には大寺院や神社ができて、政治に口出しするようになった。



桓武天皇は、これをきらって、京都に新しい都をつくり、天皇が中心になって政治を行うようにしようと思いました。

794年のことでした。

1994年に平安遷都1200年記念行事が行われました。

これまでの長い研究や発掘の成果を反映して、平安京の姿が具体的に復元されたり、再現されたりしました。

794年 平安京に都を移す。

平安時代の始まりとなったこの年を覚えましょう。

コン太：奈良から移らざるを得なかった事情を生かして

「奈良の寺が泣くよ新都平安京」

「奈良の寺泣くよ平安桓武朝」



というのですが。

「なくよ」は、そのまま794を読みました。

師 範：奈良の寺々が取り残されて、平安京には寺社は締め出された状態でした。

その中で、都を守る場所に東寺と西寺がつくられます。

この東寺には、およそ30年後に、空海の真言宗の寺が許されました。

最澄や空海が開いた新しい仏教は政治とは関係をもたず、修業やきとうを重んじて、山岳に寺を造ることが多かった。

奈良時代までの仏教は学問としての研究を重んじたり、国として救われることを考えていました。

しかし新しい仏教は、人々がみな救われる資格があると説いています。

さてコン太君の作品ですが、ペン太君の感想は？

ペン太：語呂はよく、調子よくまとまっていると思います。



ちょっと長いかな？

お母さんは

「うぐいす鳴くよ平安京」

と覚えたそうです。